## みんなで子育て 親育ち！ 地域で子育ち 親育て！

各地域の子育て支援センターが「季節に応じた様々な行事や旬の事業」を紹介する

# 子育てHOTコーナー

安曇川地域子育て支援センターでは、毎月1回「わくわくクッキング」と題して食育教室を行っています。

今年度は栄養士さんに来ていただき、食べ物についてのお話をしていただきました。「普段、何気なく食べている食事でも、バランスを考えることの大切さを改めて感じました。」という保護者からの声もあり、皆さん熱心に耳を傾けておられました。

旬の食品を使った料理や、地元の野菜を使った料理、日頃なかなか家庭では作れないような料理など（おはぎ、芋のつるのきんぴら、炭火での焼き芋）を味わってもらっています。

また、季節の行事食なども伝えていくことが大事だと感じています。

人が生きていくために「食べる」ということはとても大切なことです。おいしく食べてこそ、栄養につながっていくのです。みんなで作りながら、料理の由来やポイント、コツをわかりやすく伝えたり、おいしく試食しながらクッキングを楽しんでいます。

皆さんも食育について学んだり、一緒に味わったりしてみませんか？

## ひとり親家庭ふれあいフェスタ

母子・父子家庭の皆さん、お子さんたちと楽しいひとときを過ごしませんか。

このフェスタは、ひとり親家庭の皆さんに必要な情報の紹介、また同じ境遇で頑張る仲間との交流の場を提供します。

入場は無料です。ひとり親家庭の方は、どなたでも参加できます。

▼**日時**：11月4日(日) 13時開場
▼**場所**：守山市民ホール
▼**内容**
映画鑑賞「ゲゲゲの鬼太郎」
情報コーナー(就労支援、各種資料配付、活動紹介)
▼**主催**：滋賀県母子福祉のぞみ会
問：子ども家庭総務課 ☎(25)8136

## 子育て奮闘中の保護者が綴るコラム

# 子育てのチョット いい話

## 前向きに！

私の娘は、もうすぐ3歳になります。

生後6か月の時にアトピー性皮膚炎と診断され、それからずっと食事治療を続けてきました。

こんな幼い子に食べたいものを我慢させることは本当に可哀想で、「これ食べられる？」と確認する娘の言葉に、時々涙が出そうになります。本当にこの治療方法で良いのか、日々悩みながらも続けることができたのは、周囲の方の協力と何より娘の身体が良い方向に向かっているからです。

最近では、支援センターへ遊びに行くとアトピーやアレルギーに悩む保護者の方に出会います。同じ思いを持つ方と話をすることで、「これからも頑張ろう!!」と前向きな気持ちになれます。これからも娘と向き合えるように努力していくつもりです。

娘へ・・・。本当に頑張ってくれてるよね。ありがとう。

＝子育て支援センターへの問い合わせ＝

●マキノ地域(マキノ児童館内) ☎(27)8187
●今津地域(今津東保育園内) ☎(22)4833
●朽木地域(朽木保育園内) ☎(38)2070
●安曇川地域(古賀保育園内) ☎(33)1540
●高島地域(高島保育園内) ☎(36)0660
●新旭地域(大師山さくら園内) ☎(25)8439





# DVについて、誤解していませんか？

**だって、あいつが怒らせるから。**
**～夫が暴力をふるうのは、妻のせい？**

「自分は妻のせいで暴力をふるったんです」「暴力をふるわせても仕方がないことを妻がしたんです」など、妻が自分を怒らせたから仕方なしに暴力をふるったと主張する場合があります。そして、周囲の人もその言葉を信じる場合があります。でも、実際は暴力をふるわれている妻の方が夫を静めようと大変な努力を払っていることが多いんです。

**もともと、そういう人だったんでしょ。**
**～暴力をふるう人は、誰に対しても乱暴？**

暴力をふるう男性に決まったタイプはありません。妻に暴力をふるう夫が、家庭の外では人あたりが良く、社会的信用がある人もいます。したがって、周囲から見れば「あんな優しい人が」と信じられないかもしれませんが、実際は妻を暴力的に支配していることがあるのです。

**嫌だったら、逃げれば良いのに。**
**～なぜ、被害者は逃げることができないの？**

暴力を繰り返し受けた女性は、身も心も傷つき、逃げる気力も体力も失ってしまいます。また逃げ出しても生活していけないという経済的な理由、子どものために家庭を壊したくないという親としての責任感、見つかって連れ戻された時の恐怖などのため、逃げるきっかけを失ってしまう事があります。

**◆身近な人が暴力を受けている時、あなたにできること。**

もし、あなたのそばに暴力を受けている人がいたら、まずは、話を否定せずに受け止めてあげてください。もちろん見聞きしたことは第三者には話さず、「あなたは悪くない」と伝えてください。DVについて誰かに相談することはとても勇気のいる行動です。「あなたは、ひとりじゃないよ」と伝えて、左記の相談先の情報を教えてあげてください。

参考　滋賀県子ども家庭課発行「ドメスティック・バイオレンスをなくすために」（平成19年3月）

## 相談先

子ども家庭相談課 ☎(25)8517、市役所代表 ☎(25)8000
または、滋賀県中央子ども家庭相談センター【女性相談】 ☎077(564)7867
滋賀県立男女共同参画センター【女性センター】 ☎0748(37)8739

## シリーズ 現場から ⑥

# 信じること・待つこと・聞くこと

## ～小学校の先生からのメッセージ～

担任していたA君が万引きの見張り役をしてしまった。

私は、ただただA君を前にして涙した。毅然とした態度で強く指導するのは当然であるが、複雑な事情を抱えたA君にどのように話せば心を開いてくれるのか分からず、悲しかった。長い時間、二人とも涙しながら黙っていた。「もうしないと先生は信じているよ。」とだけ伝えるのが、精一杯だった。

その後、彼と交換ノートを続けた。交換ノートといっても文章を綴るのではなく、A君の得意とする算数の問題の出しあいっこをした。頭の体操のような問題に頭をひねることも多かったが、いつしかそのノートを開けるのが楽しみになっていた。

それからずいぶん経ったある日、なぜ万引きの見張り番をしてしまったのか、その時の苦しい胸の内を話してくれた。子どもに寄り添いながら、あなたのことを常に思っているよとメッセージを続けることで彼は、心を開いてくれたのだと確信している。

子どもたちはおしゃべりが大好きだ。「先生、あのな・・・」と次から次へと話しかけてくる。子どもたちが、声を弾ませて話すのを聞くことが何より楽しい。たわいもない話が多いが、「うんうん、そうなんだ」「へーそれで」などあいづちを打つことで子どもたちは満足そうな顔になる。その表情がたまらなく愛おしい。でも、ぼぉっと聞いているわけにはいかない。時には、さりげなく話していても、小さな心を痛めている時もある。深刻であろうことをぼそっと話すことも・・・。

私たち教師は、それを見逃さないでキャッチできる感性を磨き続けていきたいと思っている。子どもたちの健やかな成長を願って・・・。

（小学校教諭）

※シリーズ「現場から」または本ページのご意見、ご感想をファクスまたは電子メールでお寄せください。
ファクス番号は（25）5490、メールのアドレスはkodomo@city.takashima.shiga.jpです。